

令和7年度

# 研 修 集 録



秋田県立六郷高等学校

# 目 次

巻 頭 言

校長 山城 寛幸

I 県総合教育センター研修 . . . 1

A研修

高等学校新任学年主任研修講座

保健体育科 照井 正喜  
福祉科 佐々木和恵

C研修

J T E E n g l i s h W o r k s h o p

「話す力」「書く力」を育む英語科の授業

生成A I やデジタルツールを活用した授業づくり

高等学校情報 I における指導の充実

救急に役立つ応急手当

アセスメントの方法と指導の実際

英語科 芦原 康一  
英語科 芦原 康一  
情報科 山崎 光  
情報科 山崎 光  
養護教諭 細井 渉夢  
養護教諭 細井 渉夢

編集後記



## 1 はじめに

これまでに学級担任さえも、やる機会が少なく、学年主任など到底できるものではないと強く思いながらのスタートだった。年を重ねてはいるが、初めての役職は簡単なものではないことは十分に知っている。不安だらけで、年度を迎えた。担任たちが逆に不安にならないか、それが心配だった。どっしりと構えてはいるものの内心震えていた。

日がたつにつれ、学年部をはじめ、多くの先生方から力を拝借し、学年経営にあたっている。また、研修講座を通して学年主任の役割や組織マネジメントについて学び、生徒に寄り添い、生徒の進路実現に向けて手助けができればと思っている。

## 2 研修の実施日と目標および内容について

実施日 I期 令和7年5月16日(金)

II期 令和7年6月27日(金)

研修の目的 学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める。

研修の内容 I期 (1) 望まれる学年主任像と学年主任の役割〔講話〕  
(2) 生徒指導における学年主任の役割〔講義・演習〕  
(3) 思春期の揺れと成長を共に歩む〔講話〕

秋田県赤十字病院心療センター 丸山真理子 氏

II期 (1) 学年経営と組織マネジメントの基礎

〔講義・演習・協議〕

(2) 公開講演「特別活動を要としたキャリア教育の推進」

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 長田 徹 氏

(3) 学年経営の実際と運営〔講義・協議〕

## 3 感想

## (I期)

はじめの学年主任像では、コーチングは「引き出す」ためのサポートであり、「指導」という概念はなく、「思っていることを言わず、考えていることを話す」ということを学んだ。また、「研究」「工夫」「努力」の大切であり、どうなるかばかりを考えていると、前には進まない。今後、学年部と協力して行動していきたい。また、最後の講話では、子ども達は成長や親の教育によって様々な性格や特徴を持つようになることを知った。そのような生徒達にどのように対応したら良いのか、とても勉強になった。また、親の役割と教師の役割をしっかりと確認して、指導に当たっていききたい。

## (II期)

単なるキャリア教育では片付けられない講演を聴いた。今後の自分が怖い。自然に力が湧いてくるようで、鳥肌が立った。轍作りをするために、学年主任がこれから種を蒔き、水やりをしようと思う。協議では「消極的でコミュニケーション能力が低く、社会性が乏しい生徒をどう支援するか」をテーマに協議した。小規模校の先生方との協議で、いろいろと共有するものがあるって、指導に生かせると思った。また、指導が子供が自らの良さや成長を実感できるように、今後とも工夫していきたいと思う。

## A 研修

### 令和7年度 高等学校新任学年主任研修講座

福祉科 教諭 佐々木和恵

#### 1 はじめに

これまで学級担任を務める機会が多く、今年度初めて学年主任となった。組織における新たな役割は、自分に務まるのかという不安感を増大させた。しかし初々しい1年生を担当することで生徒と共に成長しようと思うようになり、学年部をはじめ多くの先生方から力をお借りし、学年経営にあたっている。研修講座で学年主任の役割や組織マネジメントについて学び、生徒のために何をすべきか考え実行できるようになりたい。

#### 2 研修の実施日と目標および内容について

実施日 I期 令和7年5月16日(金) II期 令和7年6月27日(金)  
研修の目的 学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める。

##### 研修の内容

- I期 (1) 望まれる学年主任像と学年主任の役割〔講話〕  
(2) 生徒指導における学年主任の役割〔講義・演習〕  
(3) 思春期の揺れと成長を共に歩む〔講話〕  
秋田県赤十字病院心療センター 丸山真理子 氏
- II期 (1) 学年経営と組織マネジメントの基礎〔講義・演習・協議〕  
(2) 公開講演「特別活動を要としたキャリア教育の推進」  
文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官 長田 徹 氏  
(3) 学年経営の実際と運営〔講義・協議〕

#### 3 感想

I期では、講話で学んだ「愛着障害」が印象に残った。「トラウマ」を抱えるほどの体験はなくとも、不登校等諸問題を抱える生徒の多くは、これまでの生活経験の中で愛着障害を発症している可能性は考えられる。全体を通じ、「学年主任が先走らない」という言葉が印象に残った。先生方と連携をとりながら、生徒の成長を促していきたい。

II期では、「キャリアノート」の活かし方を学んだ。入学時に小中学校でまとめてきた「キャリアノート」を提出してもらっているが、十分に活用できているとは言えない。今回の講義や公開講演でその活かし方を学ぶことができ、今後活用していきたいと思う。

特に、保護者や小中学校の先生方の生徒に対するコメントに注目していきたい。キャリアノートには、その生徒が成長過程でどのようなスキルを身につけてきたかまとめられているため、重要な情報として取り入れたいと思う。

# 県総合教育センターC講座を受講して

英語科 教諭 芦原 康一

## 1 はじめに

新学習指導要領の完全実施を受け、外国語科（英語科）においては、従来の4技能から5技能の伸長を図るとされている。特に、「話すこと」「やりとり」と「発表」に分かれたことが大きな改定点である。単純に言えば、外国語を使って何を、どのように表現できるかが重視されるようになったと言える。同時に、単なる語彙や文法の知識や技能だけではなく、自由に思考し表現する力、そして将来は自立した学習者になるためにも重要となる主体的な学習に向かう力の育成が求められ、主体的・対話的な深い学びが可能な授業改善の推進が、今まで以上に現場に求められている。そこで、発信型英語の中心とも言える「(やりとりを含めた)話すこと」と「書くこと」の技能向上につながる指導力と授業者自身の英語力をさらに向上させることが何よりも重要と感じていたことが受講のきっかけになった。

## 2 実施日と研修内容について

C-15 「話す力」、「書く力」を育む英語科の授業

実施日 : 令和7年6月26日(木)

研修目的 : 「話す力」と「書く力」の技能を高めるための指導力向上を図る。

研修内容 : 「話す力」、「書く力」を育む授業のアイデア  
(講義・演習)  
とポイント

C-16 JTE English Workshop

実施日 : 令和7年7月4日(金)

研修目的 : ディスカッション等の体験により、英語教員の英語運用能力の向上を図る。

研修内容 : 話すこと(やりとり)、ディスカッション、  
ディベート体験 (演習)

## 3 感想

現在は、学び直しから基礎学力の定着をいかに図るか、という観点で授業を実践している。今後も既習事項を活用する状況や場面を積極的に設定することで、生徒の英語による発信力の基礎確立につなげたい。

この点を英語科内でさらに共有することで、より良い授業実践にもつなげていきたい。

## C-33 生成AIやデジタルツールを活用した授業づくり

保健体育科  
情報科主任 教諭 山崎 光

### 1 はじめに

生徒数減少が著しい本校で外部への情報提供や在籍生徒及びその保護者に本校への理解度や満足度を向上させる手段はどのようなものがあるか考えたときに生成AIや各種デジタルツールを有効活用をすることが手段だと考えるとともに我々教員の働き方にもつなげられると考え、今回受講するに至った。

### 2 研修の実施日と目標および内容等について

実施日 令和7年9月4日(木)

研修場所 秋田県総合教育センター

研修目標 生成AIや各種デジタルツールの基本的な利用方法について理解を深め、授業づくりに行かすICT活用力の向上を図る。

研修内容 オリエンテーション

講義 『生成AIについて』

『生成AIやデジタルツールを利用した授業づくり』

『1人1台端末環境に求められる情報活用能力

としての情報モラル教室』

研修の振り返り

### 3 今年度の実践例

#### ①学校祭

- ・売り上げカウンターを作成、設置し、目標に向けた販売促進等

#### ②進路活動

- ・面接対策として、AIに面接官役を任せ、模擬面接を繰り返し練習

### 4 感想

生成AIについて知識不足であったが、今回の講義を経て、活用方法のアイデアが湧いてきた。授業だけではなく、学校行事などでも活用できそうであり、生徒の現状に合わせて少しずつ実践することができた。

データサイエンスについては生徒の理解が深まりにくい分野であるが、他校の取り組みなどを知ることができた。本校はデータの取り扱いの重要度を理解していない生徒が多いので、生徒が社会において困難なく情報テクノロジーを生活の中で活用できるように今回学んだことを生徒たちに還元していきたい。

## C-38 高等学校情報Ⅰにおける指導の充実

保健体育科  
情報科主任 教諭 山崎 光

### 1 はじめに

本校で情報科主任を任され3年目、1年生の情報Ⅰを担当し、体育科として年間を通して3年生の体育と1年生の体育を担当している。2020年実施のセンター試験が2021年に大学入学共通テスト（以下、共通テスト）として実施され、さらに昨年度から情報Ⅰが共通テストに加えられることになった。

本校では現状として共通テストを利用して大学入学を志す生徒はいない。生徒が現在よりさらに意欲的に参加するような授業を展開するために、また、これから長い教員生活で現状に満足せず自己研鑽するため、今回受講するに至った。

### 2 研修の実施日と目標および内容等について

実施日 令和7年6月17日(火)

研修場所 秋田県総合教育センター

研修目標 高等学校情報科について理解を深めるとともに、その実践的な知識と技術を身に付ける。

研修内容 オリエンテーション

講義 『情報Ⅰ・情報Ⅱの要点』

『データ活用とBIツール』

『データサイエンスと探究的な学び』

研修の振り返り

### 3 感想

昨年に引き続き参加し、情報Ⅰ・情報Ⅱについて、理解を深めることができた。今抱えている悩みや不安を聞いてもらいつつ、他校での現状を知ることができた。情報Ⅰの内容を自分自身がもっと理解を深めていきたい。本校では、情報の授業に良い印象を持っている生徒も多数おり、本校の取り組み内容から情報Ⅱでの学びにつなげられそうなことが多いことから履修を検討しても良いのではないかとより強く感じた。

午後の講義では生徒の理解が深まりにくいデータサイエンスについて、他校の取り組みなどを知ることができた。本校はデータの取り扱いの重要度を理解していない生徒が多いので、生徒が社会で必要とされる情報リテラシーを得ることができるように今回学んだことを生徒たちに還元していきたい。

## C-31 救急に役立つ応急手当

養護教諭 細井 渉夢

### 1 はじめに

採用から4年目を迎え、日常業務には慣れてきたが、救急対応の場面に直面すると、いつも緊張と焦りが生じてしまう。また、救急対応に関する職員研修を担当することもあるが、他者に分かりやすく知識を伝えるためには、自分はまだまだ勉強不足だと感じることもある。2年前に同じ講習を受講していたが、救急処置に関する知識の復習と、最新の情報を学ぶため、本講習を受講した。

### 2 研修の実施日と目標および内容等について

実施日 令和7年5月19日(月)

研修場所 秋田県総合教育センター

研修目標 幼児児童生徒の突然の事故や病気などに対する正しい知識や、AEDによる除細動の正確な手順を学ぶ研修を通して、正しい応急手当の仕方について理解を深める。

研修内容 <講義>

応急手当の基礎

講師：秋田大学大学院医学系研究科 准教授 奥山 学 氏

<講義・実習>

応急手当の実際

AEDを用いた応急手当の実際

講師：男鹿地区消防署救急係 3名

### 3 感想

午前の講義では、応急手当の実際について根拠を踏まえて学ぶことができた。緊急時の観察項目であるA（気道）B（呼吸）C（循環）D（意識レベル）E（体温）は、普段の応急手当でも意識し、緊急時にも冷静に観察・判断ができるようになりたい。打撲や骨折の応急手当として用いられるRICE処置は、科学的に根拠がないものであり、現在では早期リハビリの重要性が提唱されているなど、医学の常識は変化し続けている。最新の応急手当の情報を日々アップデートしていかなければならないと改めて感じた。

### 1 はじめに

昨年度から特別支援コーディネーターを担当し、生徒支援体制の充実を目指してきたが、特別支援教育に関して自分の知識不足を痛感することが多々あった。特に、生徒の発達検査の結果には重要な情報が多く含まれているが、十分に読み取ることができず、情報を生徒支援に生かし切れなかったと反省している。発達検査の概要と結果の解釈の仕方、支援方法を学び個別の教育支援計画・指導計画に反映させることで、より充実した生徒支援に繋がると思い、本講座を受講した。

### 2 研修の実施日と目標および内容等について

実施日 令和7年6月13日(金)

研修場所 秋田県総合教育センター

研修目標 児童生徒の特性に応じた指導・支援に生かすことができるように、普段の授業や日常の観察から、WISC-V 知能検査の概要と基本的な結果の解釈、支援方法まで、アセスメントの在り方について理解を深める。

研修内容 <講義・演習>

「WISC-V 知能検査の概要と基本的な検査結果の解釈」

講師：日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長 大六一志氏

### 3 感想

大六氏の講義で印象的だったのが、様々なことが結果から読み取れ、万能にも思える WISC 検査でも「社会性」は測れないということ、似ている検査結果でも、生徒の実態と照らし合わせることで全く違う解釈が得られるということだ。WISC 検査の目的は「強いところ、弱いところを知るため」ではなく、「受検者のつまずき(=問題、主訴)の能力的な原因と対策を知ること」にある。WISC 検査から多くの情報が得られるが、それは生徒の実態と照らし合わせて、アセスメントするからこそ生かせるものだと感じた

検査結果の読み取りや解釈の仕方を今後の生徒理解や生徒支援に生かすと共に、検査結果を盲信せずに、目の前の生徒と向き合うことを忘れないようにしたい。

## 編集後記

令和7年度六郷高校研修集録が完成しました。お忙しい中、寄稿くださった方々に深くお礼申し上げます。

今年度の各種校外研修について記録を残すことができました。その反面、校内研修に関しての企画ならびに実践に至ることができませんでした。大いに反省すべき点です。昨年度以来本校は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「探究的な授業」への挑戦として、「目的」をもたせ、「活動」を意識させ、主体的に取り組ませる授業改善に取り組んでおりました。今後は、こうした授業改善のさらなる啓発に向け、研修部として関係分掌と連携して様々な研修事業に取り組んで参ります。

最後に研修集録をご覧いただき、ご意見・ご感想等お寄せいただければ幸いです。お待ちしております。